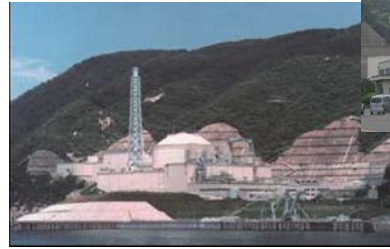


技術交流情報



平成31年 1月31日

【技術成果の展開】

平成30年度 展示会への出展

原子力機構が進める技術成果の展開を皆様に広く知っていただくため、今年度も様々な展示会に出展をさせていただきました。福井県内を始め、金沢、大阪といった各地で開催された展示会で、来場いただいた多くの方に機構の活動をご紹介することが出来ました。

今年度の展示会では、原子力機構が進める技術相談をきっかけに誕生した、「放射線照射技術等を活用した新規眼鏡枠」(有)ウチダプラスチック)や「ふりこけサッサ®の苔小鉢」(有)双葉鉄工)、「吹付和紙ガラス」(ガラス工房 KEiS(ケイズ) 庵)等の作品を出展いたしました。



<新規眼鏡枠>



<苔小鉢>

また、展示ブースにおいて、「吹付和紙」を用いて和紙を吹付けた OBAMA ガラス※の板に、カレット(ガラス片)を装飾して、オリジナルのペーパーウエイト(文鎮)作りを体験していただくコーナーを設置し、大盛況となりました。

これからも各地の展示会に出展させていただき、機構で開発された技術を紹介しながら、企業様との技術交流を深めて行けるように活動して参ります。



<展示会の様子>

※「OBAMA ガラス」とは

ガラス工房 KEiS(ケイズ) 庵の庵主が、沖縄での琉球ガラスの修業後、地元・小浜市に戻り“OBAMA ガラス”を拓かれました。琉球ガラスは元々、太平洋戦争後の資源難のため、沖縄にある米軍基地で捨てられたコーラ等の空き瓶を溶かして再利用したのがはじまりと言われており、再生の過程で混入する気泡を逆手に取って、別名「泡ガラス」とも呼ばれる工芸品になりました。“OBAMA ガラス”はその良さを取り入れながらも OBAMA ガラスでしか出来ない独自の作品を作り出す等、色々な取り組みを進めています。

【技術交流トピックス】

第16回 日韓美術作家交流展への出展協力

～吹き付け和紙と「OBAMAガラス」の調和～

今年度にお受けした技術相談をきっかけに、ガラス工房 KEiS 庵様の「OBAMA ガラス」と機構が特許技術として保有する「吹付和紙」とのコラボレーションで誕生した作品について先にご紹介しましたが、この作品が「第16回 日韓美術作家交流展」に出展されました。この交流展は、小浜市と姉妹都市である韓国慶州市の両市の若手芸術家らが、芸術を通して相互理解と親善を図ろうと平成12年から開催されているもので、この度、小浜市の芸術家として、ガラス工房 KEiS(ケイズ) 庵様が作品を出展されました。交流展は、11月25日(日)から12月2日(日)まで福井新聞小浜支社コミュニティホールで開催され、12月3日(月)から10日(月)までは、小浜市庁舎1階の市民ホールで展示されました。機構で生まれた吹き付け和紙技術と「OBAMA ガラス」の調和で誕生した作品は、美しい色合いのガラスに和の風合いがプラスされた新たな芸術作品として、好評を博しました。

今回、原子力機構の技術が芸術作品の一部となり、韓国と日本の親善の一助を担えたことを大変嬉しく思っております。私どもは、これからも原子力機構で開発された技術や特許のご紹介をし、技術の展開に努めて参りますので、どうぞ原子力機構の技術相談をご利用ください。



<交流展の様子>

